# 整数問題 解答解説

# 1 整数の性質

# 1.1 最大公約数, 最小公倍数

(1)  $\frac{2}{7}$  を小数になおしたときの小数第 135 位の数字を求めよ.

 $\frac{2}{7} = 0.285714$ 

 $135 = 6 \cdot 22 + 3$  ⇒ 135 & 6 で割ると余りが 3

小数第 135 位の数字は 285714 の 3 つ目の数字となるので、小数第 135 位の数字は 5 …答え

(2) 75を割っても、129を割っても余りが3になる自然数をすべて求めよ.

求める自然数を n とおく.  $\leftarrow$  最重要 (求めるものを文字でおく)

題意から、整数 a,b を用いると、  $\leftarrow$  最重要(条件を立式する)

75 = na + 3 かつ 129 = nb + 3

- $\Leftrightarrow$  72 = na かつ 126 = nb
  - $\therefore$  n は 72 と 126 の公約数である。  $\leftarrow$ ここが ポイント
- ⇔ n は最大公約数 18 の約数.

ただし、割る数は余りより大きいから n > 3  $\leftarrow \bigstar$ 重要(文字の定義域を考える)

18 の約数は 1,2,3,6,9,18  $\Rightarrow$  n>3 より, n=6,9,18 …答え

(3) 7で割ったら6余り、5で割ったら4余り、3で割ったら2余る最小の自然数を求めよ.

求める自然数を n とおく.  $\leftarrow$  最重要 (求めるものを文字でおく)

題意から、整数 a,b,c を用いると、  $\leftarrow$  最重要(条件を立式する)

n=7a+6 かつ n=5b+4 かつ n=3c+2

- $\Rightarrow$  n+1=7(a+1)=5(b+1)=3(c+1) よって n+1 は 7,5,3 の公倍数である.  $\leftarrow$  最重要(式の意味を考える) 3,5,7 の最小公倍数は 105  $\Rightarrow$  最小の n は, n+1=105  $\Rightarrow$  n=104 …答え
- (4) 3桁の自然数の中に2でも3でも5でも割り切れない自然数は何個あるか.

3 桁の自然数の集合をUとする.

U の部分集合 A, B, C を次のようにおく.

A = {x ∈ U|x は 2 の倍数 } , B = {x ∈ U|x は 3 の倍数 } , C = {x ∈ U|x は 5 の倍数 }

n(U) = 999 - 100 + 1 = 900

 $A = \{100, 102, 104, \dots, 998\} \Rightarrow n(A) = (998 - 100) \div 2 + 1 = 450$ 

 $B = \{102, 105, 108, \dots, 999\} \Rightarrow n(A) = (999 - 102) \div 3 + 1 = 300$ 

 $C = \{100, 105, 110, \dots, 995\} \Rightarrow n(A) = (995 - 100) \div 5 + 1 = 180$ 

 $A \cap B = \{x \in U | x \text{ は } 6 \text{ の倍数 } \} = \{102, 108, 114, \dots, 996\} \Rightarrow n(A \cap B) = (996 - 102) \div 6 + 1 = 150$ 

 $B \cap C = \{x \in U | x は 15 の倍数 \} = \{105, 120, 135, \dots, 990\} \Rightarrow n(A \cap B) = (990 - 105) \div 15 + 1 = 60$ 

 $C \cap A = \{x \in U | x は 10 の倍数 \} = \{100, 110, 120, \dots, 990\}$   $\Rightarrow$   $n(A \cap B) = (990 - 100) \div 10 + 1 = 90$ 

 $A \cap B \cap C = \{x \in U | x \text{ は } 30 \text{ の倍数 } \} = \{120, 150, 180, \dots, 990\} \Rightarrow n(A \cap B) = (990 - 120) \div 30 + 1 = 30$ 

 $\Rightarrow n(A \cup B \cup C) = n(A) + n(B) + n(C) - \{n(A \cap B) + n(B \cap C) + n(C \cap A)\} + n(A \cap B \cap C)$ = 450 + 300 + 180 - (150 + 60 + 90) + 30 = 930 - 300 + 30 = 660

$$\Rightarrow$$
  $n(\overline{A \cup B \cup C}) = n(U) - n(A \cup B \cup C) = 900 - 660 = 240$   $\Rightarrow$  **240 個 …答え**

題意から、整数 m,n を用いると、

$$a=7m+5$$
 かつ  $b=7n+6$ 

$$\Rightarrow \quad a - b = (7m + 5) - (7n + 6) = 7(m - n) - 1 = 7(m - n - 1) + 6 \quad \leftarrow \stackrel{\triangle}{x}$$

よって、余りは 6 …答え

☆「7で割って余り - 1」⇔「7で割って余り 6」

☆この問題は次の章の合同式を使うと早くできる.

(6) ある 105 未満の自然数 x を 3, 5, 7 で割った余りをそれぞれ a, b, c とする. このとき, 70a+21b+15c を 105 で割った余りが x になることを証明せよ. (百五減算(ひゃくごげんざん)「塵劫記」参考)

☆江戸時代の和算の本「塵劫記」の中にでてくる有名な問題.人の年齢をあてるために使われることが多い.

x = 3p + a = 5q + b = 7r + c (p,q,r は 0 以上の整数)とおくと、  $\Rightarrow$  a = x - 3p, b = x - 5q, c = x - 7r これらを与式に代入すると、

70a + 21b + 15c = 70x - 210p + 21x - 105q + 15x - 105r = 106x - 210p - 105q - 105r = 105(x - 2p - q - r) + x ゆえに、与式を 105 で割ると余りがx になる。

(7) 8633 と 9991 の最小公倍数を求めよ.

### ★ユークリッドの互除法

 $A \ \ \, \ \, B$  の最大公約数を見つたいとき、(ただし A > B)

$$A \div B =$$
商<sub>1</sub> ··· 余り<sub>1</sub>

$$B \div \mathfrak{S}\mathfrak{h}_1 = \mathfrak{B}_2 \quad \cdots \quad \mathfrak{S}\mathfrak{h}_2$$

$$余り1÷余り2=商3$$
 … 余り3

余り
$$2$$
÷余り $_3$ =商 $_4$  ··· 余り $_4$ 

余りが0になるまでこれを繰り返す.

$$9991 = 8633 \times 1 + 1358$$
 ( $9991$  を $8633$  で割ると、商 $1$ 、余り $1358$ )

$$1358 = 485 \times 2 + 388 (1358 を 485 で割ると、商 2、余り 388)$$

$$485 = 388 \times 1 + 97 (485 & 388$$
で割ると、商 1、余り 97)

$$388 = 97 \times 4 + 0$$
 (388 を 97 で割ると、商 4、余り 0 ~ 割り切れた)

よって最大公約数は97になる.

連除法によって,

97 8633 9991

89 103

最小公倍数は、 $97 \times 89 \times 103 = 889199$  …答え

## 別解

☆ 9991 が因数分解の公式を用いて、素因数分解できることに着目する.

$$9991 = 10000 - 9 = 100^2 - 3^2 = (100 - 3)(100 + 3) = 97 \times 103$$

97 も 103 も素数であるから、9991 の約数は 1,97,103,9991 である. あとは 8633 が 97 か 103 で割り切れるか調べればよ

(8) 最大公約数が3、最小公倍数が54となる2つの自然数をすべて求めよ.

### ★最大公約数と最小公倍数

 $A \ \, b \ \, B$  の最大公約数が  $g \ \, \Rightarrow \ \, A = ga \; , \; B = gb \; , \; a \ \, b \ \, b$  は互いに素このとき,  $A \ \, b \ \, B$  の最小公倍数  $l \ \, l \ \, gab \ \, b$  表せる.

2 つの自然数を A, B とおく. ただし,  $A \leq B$ 

題意から A = 3a B = 3b (a, b は整数で互いに素,  $a \le b$ ) とおけて,

$$3ab = 54 \Leftrightarrow ab = 18 = 2 \cdot 3^2$$

a	1	2	3	
b	18	9	6	

$$a,b$$
 が互いに素という条件から、  $(a,b)=(1,18),(2,9)$   $\Rightarrow$   $(A,B)=(\mathbf{3,54}),(\mathbf{6,27})$  …答え

(9) 最大公約数が3,和が24となる2つの自然数をすべて求めよ.

2つの自然数を A, B とおく. ただし,  $A \leq B$ 

題意から A = 3a B = 3b (a, b は整数で互いに素,  $a \le b$ ) とおけて,

$$3a + 3b = 24 \Leftrightarrow a + b = 8$$

a	1	2	3	4
b	7	6	5	4

$$a,b$$
 が互いに素という条件から、  $(a,b)=(1,7),(3,5)$   $\Rightarrow$   $(A,B)=(\mathbf{3},\mathbf{21}),(\mathbf{9},\mathbf{15})$  …答え

- (10) 自然数 a,b があり、その最大公約数を g 、最小公倍数を l とする.  $a^2+b^2+g^2+l^2=1300$  のとき、次の問いに答えよ . ただし、 a>b とする.
  - (i) g > 1 のとき、 $a \ge b$  の値を求めよ.

題意から、a=gc、b=gd(c と d は互いに素な自然数で、仮定より c>d) とおける. l は最小公倍数であるから、l=gcd

$$a^{2} + b \ 2 + g^{2} + l^{2} = (gc)^{2} + (gd)^{2} + g^{2} + (gcd)^{2}$$

$$= g^{2}c^{2} + g^{2}d^{2} + g^{2} + g^{2}c^{2}d^{2} = g^{2}(1 + c^{2} + d^{2} + c^{2}d^{2}) = g^{2}(1 + c^{2})(1 + d^{2})$$

$$1300 = 2^2 \times 5^2 \times 13 \ \text{$\sharp$ b}$$
.

$$g^2(1+c^2)(1+d^2) = 2^2 \times 5^2 \times 13$$
 ...①

- $\Rightarrow$  q は自然数で、q > 1 であるから、q = 2,5,10 である.
- (ア) g = 2 のとぎ、①  $\Leftrightarrow$   $(1+c^2)(1+d^2) = 5^2 \times 13$
- $\Rightarrow$   $1+c^2=65,1+d^2=5$   $\Rightarrow$  c=8,d=2 しかし、これは互いに素ではないので矛盾
- (イ) g = 5 のとぎ、①  $\Leftrightarrow$   $(1+c^2)(1+d^2) = 2^2 \times 13$
- $\Rightarrow$  1+c<sup>2</sup> = 26,1+d<sup>2</sup> = 2  $\Rightarrow$  c = 5,d = 1
- (ウ) g = 10 のとぎ、①  $\Leftrightarrow$   $(1+c^2)(1+d^2) = 13$
- $\Rightarrow$  1+c<sup>2</sup>,1+d<sup>2</sup>>1より、この式を満たす自然数 c, d はない.

$$(\mathcal{T})$$
 から, $c=5$  かつ  $d=1$   $\Rightarrow$   $a=gc=5\times 5=25$ , $b=gd=5\times 1=5$   $\Rightarrow$   $(a,b)=(25,5)$  …答え

☆確かめ  $25^2 + 5^2 + 5^2 + 25^2 = 1300$ 

(ii) g=1 のとき、a と b の値を求めよ.

$$\therefore$$
  $c,d$  は自然数であるから  $(c^2,d^2)=(49,25)$   $\Rightarrow$   $(c,d)=(7,5)$  よって,  $a=gc=1\times 7=7$ ,  $b=gd=1\times 5=5$   $\Rightarrow$   $(a,b)=(7,5)$  …答え

☆確かめ 
$$7^2 + 5^2 + 1^2 + 35^2 = 1300$$

# 1.2 **合同式 (mod)**

(1)  $3^{103}$  を 10 で割ったときの余りを求めよ.

## ★合同式

$$x$$
 を  $m$  で割った余り  $a$   $\Leftrightarrow$   $x \equiv a \pmod{m}$ 

$$3\equiv 3\pmod{10}$$

$$3^2 \equiv 3 \cdot 3 \equiv 9 \pmod{10}$$

$$3^3 \equiv 9 \cdot 3 \equiv 7 \pmod{10}$$

$$3^4 \equiv 7 \cdot 3 \equiv 1 \pmod{10}$$

$$\therefore$$
  $3^{103} \equiv 3^4 \cdot 25 + 3 \equiv (3^4)^{25} \cdot 3^3 \equiv 1^{25} \cdot 7 \equiv 7$  …答え

(2)  $3^{103}$  を 7 で割ったときの余りを求めよ.

$$3 \equiv 3 \pmod{7}$$

$$3^2 \equiv 3 \cdot 3 \equiv 2 \pmod{7}$$

$$3^3 \equiv 2 \cdot 3 \equiv 6 \pmod{7}$$

$$3^4 \equiv 6 \cdot 3 \equiv 4 \pmod{7}$$

$$3^5 \equiv 4 \cdot 3 \equiv 5 \pmod{7}$$

$$3^6 \equiv 5 \cdot 3 \equiv 1 \pmod{7}$$

$$\therefore$$
  $3^{103} \equiv 3^6 \cdot 17 + 1 \equiv (3^6)^{17} \cdot 3 \equiv 1^{17} \cdot 3 \equiv 3$  …答え

(3) p, 2p+1, 4p+1 が素数であるとき、その素数 p を全て求めよ.

# ★まず手を動かせ ★1,2,3 で考えろ

まずは素数を小さい順に調べてみる.

素数 p	2p + 1	4p + 1	適・不適
2	5	9	×
3	7	13	0
5	11	21	×
7	15	29	×
11	23	45	×

調べてみると答えは 3 であると推測できる. それ以外の場合は 2p+1 か 4p+1 のどちらかが 3 で割り切れることに気がつけば以下の場合分けは難しくない.

# 解答

素数pに対して、3で割った余りについての合同式を考えると、

 $p \equiv 0,1,2 \pmod{3}$  の3通りしかない.以下( $\mod 3$ )とする.

 $p\equiv 1$  のとき  $2p+1\equiv 0$  ,  $4p+1\equiv 2$  すなわち, p が 3 で割って 1 余るとき, 2n+1 は必ず 3 で割り切れる  $p\equiv 2$  のとき  $2p+1\equiv 2$  ,  $4p+1\equiv 0$  すなわち, p が 3 で割って 2 余るとき, 4n+1 は必ず 3 で割り切れる

よって,  $p \equiv 0$  以外のとき, 2p+1, 4p+1 が共に素数になることはない.

 $p \equiv 0$  を満たす素数 p は 3 だけであり、そのとき、 2p+1=7、4p+1=13 となって共に素数である.

p=3 …答え

(4) 2以上の自然数 n に対して、n と  $n^2+2$  がともに素数になるのは n=3 の場合に限ることを示せ.

☆前問の類題といえる.

#### 解答

自然数nに対して、3で割った余りについての合同式を考えると、

 $n \equiv 0, 1, 2 \pmod{3}$  の 3 通りしかない. 以下  $\pmod{3}$  とする.

 $n \equiv 1$  のとき  $n^2 + 2 \equiv 0$  すなわち、n が 3 で割って 1 余るとき、 $n^2$  は必ず 3 で割り切れる  $n \equiv 2$  のとき  $n^2 + 2 \equiv 0$  すなわち、n が 3 で割って 2 余るとき、 $n^2$  は必ず 3 で割り切れる

よって,  $n \equiv 0$  以外のとき,  $n^2 + 2$  が素数になることはない.

 $n \equiv 0$  を満たす素数 n は 3 だけであり、そのとき、 $n^2 + 2 = 11$  となって素数である。< Q.E.D >

# 2 式の変形

### 2.1 不定方程式

- (1) 18x = 24y を満たす整数 (x, y) の組をすべて求めよ.
  - ★不定方程式の解き方1

 $18x = 24y \Leftrightarrow 3x = 4y$ 

整数 n を用いて、3x = 4y = n とおける. …①

この式から n は 3 と 4 の公倍数であるから、最小公倍数 12 の倍数といえるので、

整数mを用いて、n=12mとする.

① 
$$\Leftrightarrow$$
  $3x = 4y = 12m$   $\Leftrightarrow$  
$$\begin{cases} 3x = 12m & \Leftrightarrow & x = 4m \\ 4y = 12m & \Leftrightarrow & y = 3m \end{cases}$$
 $\therefore$   $(x, y) = (4m, 3m)$  ただし、 $m$  は整数.

- (2) 85x + 51y = 1700 を満たす整数 (x, y) の組をすべて求めよ.
  - ★不定方程式の解き方2

$$85x + 51y = 1700$$
 ⇔  $5x + 3y = 100$  ⇔  $3y = 5(20 - x)$  整数  $n$  を用いて、  $3y = 5(20 - x) = n$  とおける. …①

この式からnは3と5の公倍数であるから、最小公倍数15の倍数といえるので、

整数 m を用いて、n=15m とする.

型数 
$$m$$
 を用いて、  $n=15m$  と  $y$  3.

①  $\Leftrightarrow$   $3y=5(20-x)=15m$   $\Leftrightarrow$   $\begin{cases} 5(20-x)=15m & \Leftrightarrow 20-x=3m & \Leftrightarrow x=20-3m \\ 3y=15m & \Leftrightarrow y=5m \end{cases}$ 
∴  $(x,y)=(20-3m,5m)$  ただし、 $m$  は整数.

#### ★不定方程式の解き方3

$$5x + 3y = 37$$
 ⇔  $5x + 3y = 10 + 27$  ⇔  $3y - 27 = 10 - 5x$  ⇔  $3(y - 9) = 5(2 - x)$  整数  $n$  を用いて、 $3(y - 9) = 5(2 - x) = n$  とおける. …①

この式からnは3と5の公倍数であるから、最小公倍数15の倍数といえるので、

整数 m を用いて、 n=15m とする.

① 
$$\Leftrightarrow$$
  $3(y-9)=5(2-x)=15m$   $\Leftrightarrow$   $\begin{cases} 5(2-x)=15m & \Leftrightarrow 2-x=3m & \Leftrightarrow x=2-3m \\ 3(y-9)=15m & \Leftrightarrow y-9=5m & \Leftrightarrow y=5m+9 \end{cases}$   $\therefore$   $(x,y)=(2-3m,5m+9)$  ただし、 $m$  は整数.

よって、
$$z = \frac{x-y}{x+y} = \frac{(2-3m) - (5m+9)}{(2-3m) + (5m+9)} = \frac{-8m-7}{2m+11}$$
$$= \frac{-4(2m+11) + 37}{2m+11} \leftarrow \bigstar$$
分数式の帯分数化
$$= -4 + \frac{37}{2m+11}$$

z が整数  $\Rightarrow$  2m+11 が 37 の約数

37 は素数であるから、  $2m+11=\pm 1$  または  $2m+11=\pm 37$ 

$$\Rightarrow$$
  $m = -24, -6, -5, 13$   $\Rightarrow$   $(x, y) = (74, -111), (20, -21), (17, -16), (-37, 74)$  …答え

# 2.2 因数分解

(1) 25! を素因数分解せよ.

$$25 = 2 \cdot \mathbf{12} + 1$$
  $25 = 2^2 \cdot \mathbf{6} + 1$   $25 = 2^3 \cdot \mathbf{3} + 1$   $25 = 2^4 \cdot \mathbf{1} + 9$   $\Rightarrow$   $25!$  は  $2^{12+6+3+1} = 2^{22}$  で割り切れる  $25 = 3 \cdot \mathbf{8} + 1$   $25 = 3^2 \cdot \mathbf{2} + 7$   $\Rightarrow$   $25!$  は  $3^{8+2} = 3^{10}$  で割り切れる 同様にして、

$$25! = 2^{22} \cdot 3^{8+2} \cdot 5^{5+1} \cdot 7^3 \cdot 11^2 \cdot 13 \cdot 17 \cdot 19 \cdot 23$$
  
=  $2^{22} \cdot 3^{10} \cdot 5^6 \cdot 7^3 \cdot 11^2 \cdot 13 \cdot 17 \cdot 19 \cdot 23$  …答え

(2) 50! は末尾に 0 がいくつ並ぶか.

$$50 = 2 \cdot 25$$
  $50 = 2^2 \cdot 12 + 1$   $50 = 2^3 \cdot 6 + 2$   $50 = 2^4 \cdot 3 + 2$   $50 = 2^6 \cdot 1 + 18$   $50 = 5 \cdot 10$   $50 = 5^2 \cdot 2$  よって、 $50!$  は、 $2^{25+12+6+3+1}$ で割り切れ、かつ  $5^{10+2}$  で割り切れる.  $10 = 2 \cdot 5$  であるから、 $50!$  の末尾に  $0$  が  $12$  個 並ぶ. …答え

(3) 96 の正の約数の個数と、正の約数の総和を求めよ.

## ★素因数分解と約数

$$96 = 2^5 \cdot 3^1$$

 $\Rightarrow$  96 の約数は  $2^{0 \sim 5} \cdot 3^{0 \sim 1}$  と表せる.

## ★約数の個数

素因数 2 の次数が  $0\sim 5$   $\Rightarrow$  5+1=6 通 9  $\Rightarrow$  約数の個数は  $6\cdot 2=$  **12 個 …答え** 素因数 3 の次数が  $0\sim 1$   $\Rightarrow$  1+1=2 通 9

#### ★約数の総和

$$(2^{0} \cdot 3^{0} + 2^{1} \cdot 3^{0} + 2^{2} \cdot 3^{0} + 2^{3} \cdot 3^{0} + 2^{4} \cdot 3^{0} + 2^{5} \cdot 3^{0})$$

$$+ (2^{0} \cdot 3^{1} + 2^{1} \cdot 3^{1} + 2^{2} \cdot 3^{1} + 2^{3} \cdot 3^{1} + 2^{4} \cdot 3^{1} + 2^{5} \cdot 3^{1})$$

$$= (2^{0} + 2^{1} + 2^{2} + 2^{3} + 2^{4} + 2^{5}) \cdot 3^{0} + (2^{0} + 2^{1} + 2^{2} + 2^{3} + 2^{4} + 2^{5}) \cdot 3^{1}$$

$$= (2^{0} + 2^{1} + 2^{2} + 2^{3} + 2^{4} + 2^{5}) \cdot (3^{0} + 3^{1}) \quad \leftarrow \bigstar 2^{5} \cdot 3^{1}$$

$$= (1 + 2 + 4 + 8 + 16 + 32) \cdot (1 + 3) = 63 \cdot 4 = \mathbf{252} \qquad \cdots$$
**答え**

(4) 504 の正の約数の個数と、正の約数の総和を求めよ.

### ★素因数分解と約数

$$504 = 2^3 \cdot 3^2 \cdot 7^1$$

 $\Rightarrow$  504 の約数は  $2^{0\sim3} \cdot 3^{0\sim2} \cdot 7^{0\sim1}$  と表せる.

#### ★約数の個数

素因数 2 の次数が  $0\sim3$   $\Rightarrow$  3+1=4 通り 素因数 3 の次数が  $0\sim2$   $\Rightarrow$  2+1=3 通り  $\Rightarrow$  約数の個数は  $4\cdot3\cdot2=\mathbf{24}$  個 …答え 素因数 7 の次数が  $0\sim1$   $\Rightarrow$  1+1=2 通り

#### ★約数の総和

$$(2^0+2^1+2^2+2^3)$$
 ·  $(3^0+3^1+3^2)$  ·  $(7^0+7^1)=15$  ·  $13$  ·  $8=$  **1560** ・・・・答え

(5) 2 ケタの自然数の中で,正の約数が3個であるものをすべて書き並べよ.

#### ★約数の個数

自然数 n の素因数分解が、  $n=a^p\cdot b^q\cdot c^r\cdot \cdots$  ( $a,b,c\in$ 素数  $p,q,r\in$ 自然数 ) と表せるとき、約数の個数は  $(p+1)(q+1)(r+1)\cdots$  である.

つまり、約数の個数が 3 個であるということは、  $(p+1)(q+1)(r+1)\cdots=3$  しかし、3 は素数であるから、p+1=3 かつ  $q=r=\cdots=0$  よって、次のことが言える.

- ★自然数 n の正の約数の個数が 3 個  $\Leftrightarrow$   $n=a^2$  (ただし、a は素数 ) 以上から、2 桁の自然数で約数が 3 個であるものは、  $5^2$ 、 $7^2$   $\Rightarrow$  **25**、**49** …答え
- (6) 2 ケタの自然数の中で、正の約数が8 個であるものは何個あるか、

# ★約数の個数

自然数 n の素因数分解が、  $n=a^p\cdot b^q\cdot c^r\cdot \cdots$  ( $a,b,c\in$ 素数  $p,q,r\in$ 自然数 ) と表せるとき、約数の個数は  $(p+1)(q+1)(r+1)\cdots$  である.

- ①  $2 \cdot 3 \cdot 5$ ,  $2 \cdot 3 \cdot 7$ ,  $2 \cdot 3 \cdot 11$ ,  $2 \cdot 3 \cdot 13$ ,  $2 \cdot 5 \cdot 7 \Rightarrow 5$
- ②  $2^3 \cdot 3$ ,  $2^3 \cdot 5$ ,  $2^3 \cdot 7$ ,  $2^3 \cdot 11$ ,  $3^3 \cdot 2 \Rightarrow 5$  個
- ③  $2^7 = 128 \ge 100$  ⇒ 0個
  - $\therefore$  5+5+0=**10** 個 **…答え**
- (7)  $\frac{2}{a} + \frac{3}{b} = 1$  を満たす自然数の組 (a,b) を求めよ.

★文字式と整数 「 因数分解 = 素因数分解 」の形にする.

題意から a も b も 0 ではないから、与式を ab 倍して、

与式 
$$\Leftrightarrow$$
  $2b+3a=ab$   $\Leftrightarrow$   $ab-3a-2b=0$   $\Leftrightarrow$   $(a-2)(b-3)=6$ 

 $a \ge 1$ ,  $b \ge 1$   $\Leftrightarrow$   $a-2 \ge -1$ ,  $b-3 \ge -2$ 

$$(a-2,b-3) = (1,6), (2,3), (3,2), (6,1)$$

$$\Leftrightarrow$$
  $(a,b)=(3,9),(4,6),(5,5),(8,4)$  …答え

#### ☆別解

題意から  $\frac{2}{a} > 0$  かつ  $\frac{3}{b} > 0$ 

よって与式から 
$$\frac{3}{b} = 1 - \frac{2}{a} > 0$$
 かつ  $\frac{2}{a} = 1 - \frac{3}{b} > 0$   $\Leftrightarrow \frac{2}{a} < 1$  かつ  $\frac{3}{b} < 1$ 

- $\Leftrightarrow$  a > 2 かつ b > 3  $\Rightarrow$   $a = 3, 4, 5, \cdots$  について調べればよい.
- (8) x, y が正の整数であるとき、 $2x^2 + 7xy + 6y^2 104 = 0$  を解け.
  - ★文字式と整数 「因数分解 = 素因数分解」の形にする.

$$2x^2 + 7xy + 6y^2 - 104 = 0$$
  $\Leftrightarrow$   $2x^2 + 7xy + 6y^2 = 104$   $\Leftrightarrow$   $(x+2y)(2x+3y) = 2^3 \cdot 13$ 

x, y が正の整数であるから, x + 2y < 2x + 3y

$$\Rightarrow$$
  $(x+2y,2x+3y)=(1,104),(2,52),(4,26),(8,13)$  ←このとき約数の個数を考えて確認

$$\Rightarrow$$
  $(x,y)=(205,-102),(98,-48),(40,-18),(2,3)$   $\Rightarrow$   $x,y$  は正の整数であるから,  $(x,y)=(2,3)$  …答え

- (9)  $x^2 + mx + m 6 = 0$  が整数解 x をもつとき、m の値を求めよ.
  - ★2次整式と整数 因数分解と判別式と解と係数の関係の利用

$$D = m^2 - 4(m-6) = m^2 - 4m + 24 = (m-2)^2 + 20 > 0$$

よって、
$$x^2 + mx + m - 6 = 0$$
 は異なる 2 つの実数解をもつ. これを、 $\alpha$  、 $\beta$  ( $\alpha < \beta$ ) とする. …①

解と係数の関係から、 $\alpha + \beta = -m$  かつ  $\alpha\beta = m - 6$  ここから m を消去して、

$$\alpha\beta = -(\alpha + \beta) - 6 \Leftrightarrow \alpha\beta + \alpha + \beta = -6 \Leftrightarrow (\alpha + 1)(\beta + 1) = -5 \Leftrightarrow \Delta\beta$$

ゆえに 
$$(\alpha+1, \beta+1) = (-5,1), (-1,5)$$
  $\Rightarrow$   $(\alpha, \beta) = (-6,0), (-2,4)$   $\Rightarrow$   $m = 6,-2$  …答え

### ☆別解

与方程式  $\Leftrightarrow m(x+1) = 6 - x^2$ 

$$x+1=0$$
 のとき、  $x^2+mx+m-6=-5\neq 0$  より題意に不適当だから、

①より、 $m = -(\alpha + \beta)$  となって、これは整数である.

m, -x+1 は整数なので、②から x+1 は 5 の約数.

$$\therefore x + 1 = -5, -1, 1, 5 \Leftrightarrow x = -6, -2, 0, 4 \Rightarrow m = -2, 6$$

# 3 不等式

## 3.1 範囲の決定

(1)  $1 \le x^2 - 4x - 2 \le 12$  を満たす整数解 x を求めよ.

題意から ① 
$$x^2 - 4x - 2 \ge 1$$
 かつ ② $x^2 - 4x - 2 \le 12$ 

(1) 
$$\Leftrightarrow$$
  $x^2 - 4x - 3 \ge 0$   $\Leftrightarrow$   $x \le 2 - \sqrt{7}$  \$\pi t i \tau 2 +  $\sqrt{7} \le x$ 

(2) 
$$\Leftrightarrow$$
  $x^2 - 4x - 14 \le 0$   $\Leftrightarrow$   $2 - 3\sqrt{2} \le x \le 2 + 3\sqrt{2}$ 

$$\therefore 2-3\sqrt{2} \le x \le 2-\sqrt{7} \ \text{$\sharp$ $t$ it } 2+\sqrt{7} \le x \le 2+3\sqrt{2}$$

$$\Rightarrow x = 2 - 4, 2 - 3, 2 + 3, 2 + 4 \Rightarrow x = -2, -1, 5, 6$$
 …答え

(2)  $x^2 + y^2 = 4x$  の整数解 (x, y) を求めよ.

与式 ⇔ 
$$x^2 - 4x + y^2 = 0$$
 ⇔  $(x-2)^2 + y^2 = 4$   $(x-2)^2 \ge 0$  かつ  $y^2 \ge 0$  より,  $((x-2)^2, y^2) = (0,4), (1,3), (2,2), (3,1), (4,0)$   $x-2,y$  ともに整数であるから,  $((x-2)^2, y^2) = (0,4), (4,0)$  ⇔  $(x-2,y) = (0,\pm 2), (\pm 2,0)$  ⇔  $(x,y) = (2,2), (2,-2), (4,0), (0,0)$  …答え

(3)  $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = 1$  を満たす自然数の組 (a, b, c) を求めよ.

変数の対称性から、 $a \le b \le c$  としても一般性を保たれる.

題意から、
$$0 < a \le b \le c$$
  $\Leftrightarrow \frac{1}{a} \ge \frac{1}{b} \ge \frac{1}{c}$ 

$$\Rightarrow$$
  $1 = \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \le \frac{1}{a} + \frac{1}{a} + \frac{1}{a} = \frac{3}{a}$ 

$$\therefore \quad 1 \le \frac{3}{a} \quad \Leftrightarrow \quad a \le 3$$

a は自然数であるから、a = 1, 2, 3 の何れかである.

① 
$$a=1$$
 のとき、 $\frac{1}{b}+\frac{1}{c}=0$   
しかし、 $\frac{1}{b},\frac{1}{c}>0$  ⇒ 自然数解  $b,c$  はない.

② 
$$a = 2 \mathcal{O} \ \xi \ \xi, \ \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = 1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

$$\frac{1}{b} \ge \frac{1}{c} \Rightarrow \frac{1}{2} = \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \le \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = \frac{2}{b}$$

$$\therefore \frac{1}{2} \le \frac{2}{b} \Leftrightarrow b \le 4$$

$$\int b = 2$$
 のとき,  $\frac{1}{c} = 0$  を満たす自然数  $c$  がないので, 不適当.

③ 
$$a = 3$$
  $\mathcal{O}$   $\xi$   $\xi$ ,  $\frac{1}{b} + \frac{1}{c} = 1 - \frac{1}{3} = \frac{2}{3}$   
 $\frac{1}{b} \ge \frac{1}{c} \implies \frac{2}{3} = \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \le \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = \frac{2}{b}$ 

$$\frac{1}{2} \stackrel{?}{=} \frac{1}{c} \Rightarrow \frac{1}{3} = \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \stackrel{?}{=} \frac{1}{b} + \frac{1}{c}$$

$$\therefore \quad \frac{2}{3} \le \frac{2}{b} \quad \Leftrightarrow \quad b \le 3$$

$$a \le b$$
 より、 $3 \le b \le 3$   $\Rightarrow$   $b = 3$   $\Rightarrow$   $\frac{1}{c} = \frac{2}{3} - \frac{1}{3} = \frac{1}{3}$   $\Rightarrow$   $(a, b, c) = (3, 3, 3)$  これも条件を満たす

以上から、 $a \le b \le c$  のとき、(a,b,c) = (2,3,6), (2,4,4), (3,3,3) が題意を満たす.

 $a \le b \le c$  の条件をとって、それぞれの並べ替えを考えると、

(a,b,c)=(2,3,6),(2,6,3),(3,2,6),(3,6,2),(6,2,3),(6,3,2),(2,4,4),(4,2,4),(4,4,2),(3,3,3) …答え

# 3.2 ガウス記号

(1) [x] をx を超えない最大の整数とする.

### ★ガウス記号

[x] means the greatest integer less than or equal to x.

性質  $[x] \le x < [x] + 1$ 

☆いろいろな性質があるが、これさえおさえておけばどうにかなる.

(i) 
$$\frac{14}{3} < x < 5 \text{ のとき}, \quad \left[\frac{3x}{7}\right] - \left[\frac{3[x]}{7}\right] \text{ を求めよ}.$$

$$\begin{cases} \frac{14}{3} < x < 5 \Leftrightarrow 14 < 3x < 15 \Leftrightarrow 2 < \frac{3x}{7} < \frac{15}{7} \Rightarrow \left[\frac{3x}{7}\right] = 2\\ \frac{14}{3} < x < 5 \Rightarrow [x] = 4 \Rightarrow \left[\frac{3[x]}{7}\right] = \left[\frac{3 \cdot 4}{7}\right] = 1 \end{cases} \Rightarrow \text{ 与式} = 2 - 1 = 1$$
 **…答え**

(ii) n を自然数とする. あらゆる実数 x に対して,  $\left[\frac{x}{n}\right] - \left[\frac{[x]}{n}\right]$  を求めよ.

整数 a に対して,  $\left[\frac{x}{n}\right] = a$  とおく.  $\longleftrightarrow$  がウス記号の性質  $\left[x\right] \le x < \left[x\right] + 1$   $\Rightarrow a \le \frac{x}{n} < a+1 \Rightarrow na \le x < na+n \Rightarrow \left[x\right] = na$  ,na+1 ,na+2 , $\cdots$  ,na+n-1  $0 \le t < n$  を満たす整数 t を用いて,  $\left[x\right] = na+t$  とおける.

このとき、
$$0 \le \frac{t}{n} < 1$$
 であるから、 与式  $= a - \left[\frac{na+t}{n}\right] = a - \left[a + \frac{t}{n}\right] = a - a = \mathbf{0}$  …答え

(2) [x] をx を超えない最大の整数とする。 $4[x^2] - 36[x] + 45 < 0$  を満たすx の範囲を求めよ。

☆方針をたてにくいが、**だいたい**の答えは簡単にわかる. ←★だいたいを考えろ  $4x^2-36x+45<0\Leftrightarrow (2x-3)(2x-15)<0\Leftrightarrow \frac{3}{2}< x<\frac{15}{2}$  ということは、 [x]=2,3,4,5,6,7 であろうと推測できる.

#### 解答

$$4[x^2] - 36[x] + 45 < 0$$
 ...(1)

まず、 $[x] \le 1$  ではないことを証明する.  $\leftarrow \Diamond$  もしも、  $[x] \le 1$  と仮定すると  $\begin{cases} x^2 \ge 0 \Rightarrow 4 \left[ x^2 \right] \ge 0 \\ -36 \left[ x \right] \ge -36 \end{cases} \Rightarrow \quad$  左辺 = 0 - 36 + 45 > 0 となり矛盾.ゆえに背理法から  $[x] \ge 2$ 

⑦ 
$$a=2$$
 のとき 
$$\begin{cases} a=2 \text{ たので}, \ a^2 \leq x^2 \Rightarrow 4 \leq x^2 \\ \textcircled{1} \Leftrightarrow 4[x^2] - 36 \cdot 2 + 45 < 0 \Leftrightarrow [x^2] < \frac{27}{4} \end{cases}$$
 
$$\therefore \quad [x^2] = 4, 5, 6 \quad \Rightarrow \quad 4 \leq x^2 < 7 \quad \Rightarrow \quad 2 \leq x < \sqrt{7}$$

$$\textcircled{3}$$
  $a=3$  のとき 
$$\begin{cases} a=3 \text{ なので}, \ a^2 \leq x^2 \Rightarrow 9 \leq x^2 \\ \textcircled{1} \Leftrightarrow 4[x^2] - 36 \cdot 3 + 45 < 0 \Leftrightarrow [x^2] < \frac{63}{4} \end{cases}$$

 $\therefore \quad [x^2] = 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15 \quad \Rightarrow \quad 9 \leq x^2 < 16 \quad \Rightarrow \quad 3 \leq x < 4$ 

⑦ 
$$a=4$$
 のとき 
$$\begin{cases} a=4 \text{ なので}, \ a^2 \leq x^2 \Rightarrow 16 \leq x^2 \\ \textcircled{1} \Leftrightarrow 4[x^2] - 36 \cdot 4 + 45 < 0 \Leftrightarrow [x^2] < \frac{99}{4} \end{cases}$$
$$\therefore \quad [x^2] = 16, 17, 18, \cdots, 24 \quad \Rightarrow \quad 16 \leq x^2 < 25 \quad \Rightarrow \quad 4 \leq x < 5$$

① 
$$a=6$$
 のとぎ 
$$\begin{cases} a=6 \text{ なので}, \ a^2 \leq x^2 \Rightarrow 36 \leq x^2 \\ \text{①} \Leftrightarrow 4[x^2] - 36 \cdot 6 + 45 < 0 \Leftrightarrow [x^2] < \frac{171}{4} \end{cases}$$
  $\therefore [x^2] = 36, 37, 38, \cdots, 42 \Rightarrow 36 \leq x^2 < 43 \Rightarrow 6 \leq x < \sqrt{43}$ 

② 
$$a=7$$
 のとぎ 
$$\begin{cases} a=7 \text{ なので}, \ a^2 \leq x^2 \Rightarrow 49 \leq x^2 \\ \textcircled{1} \Leftrightarrow 4[x^2] - 36 \cdot 7 + 45 < 0 \Leftrightarrow [x^2] < \frac{207}{4} \end{cases}$$
 
$$\therefore \quad [x^2] = 49, 50, 51 \quad \Rightarrow \quad 49 \leq x^2 < 52 \quad \Rightarrow \quad 7 \leq x < 2\sqrt{13}$$

 $\odot \sim$   $\odot$  をまとめると,  $2 \le x < \sqrt{7} \; exttt{又は} \; 3 \le x < \sqrt{34} \; exttt{又は} \; 6 \le x < \sqrt{43} \; exttt{Z} exttt{は} \; 7 \le x < 2\sqrt{13}$  …答え

☆このあとの論証で、負の数を考えると場合分けが面倒である。なのでここで負の数を排除したい。だから 0 以下ではないことを証明した。別に、2 乗するときに負の数について場合分けして論証してもかまわない。

# 4 総合

(1) 3以上の素数pに対して、整数a, b, c, dが、  $a \ge b \ge c \ge d$  ליים a + b + c + d = 0 לים ad - bc + p = 0を満たすとき、整数a, b, c, dをpで表せ.

**★ 整数問題** 3 つの解法を中心に考えよう.

解法① 整数の性質 解法② 因数分解 解法③ 不等式

## 解答

☆方程式をみたら、文字を消去して、解法②を考えよう.

☆整数問題の方程式では、符号が「+」になるような式変形が有効.

$$a+b+c+d=0 \Leftrightarrow d=-a-b-c \cdots 1$$

①を ad - bc + p = 0 に代入して、

$$a(-a-b-c)-bc+p=0$$
  $\Leftrightarrow$   $p=a^2+ab+ac+bc$   $\Leftrightarrow$   $p=(a+b)(a+c)$ 

 $b \ge c$  より、 $a+b \ge a+c$  であり、p は素数であるから次の②と③が考えら

$$\begin{cases} \textcircled{2} & a+b=p & \text{if } a+c=1 \\ \textcircled{3} & a+b=-1 & \text{if } a+c=-p \end{cases} \Leftrightarrow \begin{cases} \textcircled{2} & b=p-a & \text{if } c=1-a \\ \textcircled{3} & b=-1-a & \text{if } c=-p-a \end{cases}$$

☆まだ使っていない条件を考える.

②のとき、

$$a \ge b \ge c \ge d \text{ に } 1), \text{② を代入して}, \qquad \left\{ \begin{array}{ll} a \ge b & \Leftrightarrow & a \ge p-a & \Leftrightarrow & a \ge \frac{p}{2} \\ b \ge c & \Leftrightarrow & p-a \ge 1-a & \Leftrightarrow & p \ge 1 & (\text{ あらゆる } a \text{ で成立} \text{ }) \\ c \ge d & \Leftrightarrow & 1-a \ge -a - (p-a) - (1-a) & \Leftrightarrow & a \le \frac{p+2}{2} \end{array} \right.$$

$$\Rightarrow \quad \frac{p}{2} \le a \le \frac{p+2}{2}$$

$$p$$
 は  $3$  以上の素数であるから奇数. つまり  $\frac{p}{2}$  と  $\frac{p+2}{2}$  の間には整数が  $1$  個しかない. 
$$: \quad a = \frac{p+1}{2} \quad \Rightarrow \quad b = \frac{p-1}{2} \; , \quad c = \frac{-p+1}{2} \; , \quad d = \frac{-p-1}{2}$$

③*のとき*、

$$\left\{ \begin{array}{lll} a \geq b & \Leftrightarrow & a \geq -1-a & \Leftrightarrow & a \geq -\frac{1}{2} \\ b \geq c & \Leftrightarrow & -1-a \geq -p-a & \Leftrightarrow & p \geq 1 & ( あらゆる a で成立 ) \\ c \geq d & \Leftrightarrow & -p-a \geq -a-(-1-a)-(-p-a) & \Leftrightarrow & a \leq \frac{-2p-1}{2} & \cdots \oplus a \end{array} \right.$$

$$p \ge 3 \ \sharp \ \emptyset, \quad \textcircled{4} \quad \Rightarrow \quad a \le \frac{-2p-1}{2} < 0$$

しかし、 $a \ge b \ge c \ge d$  かつ a+b+c+d=0 より、a>0 である. (ごもし a<0 ならば a,b,c,d は全て負となり矛盾) これらは矛盾するので③は不適当である.

$$\therefore$$
  $a=rac{p+1}{2}$  ,  $b=rac{p-1}{2}$  ,  $c=rac{-p+1}{2}$  ,  $d=rac{-p-1}{2}$  …答え

- (2) 自然数 n に対して、 $2^n + 3^{n+1}$  と  $2^{n+1} + 3^n$  が互いに素になることを証明せよ.
  - ★整数問題 3つの解法を中心に考えよう.

解法① 整数の性質 解法② 因数分解 解法③ 不等式 ここでは解法①を中心に考える.

### 解法

★ 互いに素 の性質 整数 x, y, z に対して次が成立する.

定理⑦  $x \perp y$  かつ  $x \perp z$   $\Leftrightarrow$   $x \perp yz$ 

- ⑦の十分性  $x \ge yz$  が共通な素因数 p をもつとすると, y,z のどちらかが p で割り切れるので矛盾.
- ⑦の必要性 対偶を考えると、x は y, z のどちらかと共通な素因数 p をもつので、yz も p で割り切れる.
- ①の十分性  $x + yz = p\alpha$ ,  $y = p\beta(p \text{ は素数}, \alpha, \beta \text{ は整数}) と仮定すると, <math>x = p(\alpha z\beta)$  となり矛盾.
- ②の必要性 対偶を考えると、 $x \ge y$  が共通な素因数 p をもつので、x + yz も p で割り切れる.
- ⑦から, 次が言える.

定理の 自然数 m, n に対して,  $x \perp y$   $\Leftrightarrow$   $x^m \perp y^n$ 

 $2 \perp 3$ 

$$\Leftrightarrow$$
  $2 \cdot 2^n + 3^n \perp 2$   $\leftarrow \therefore \textcircled{3}, x = 3^n, y = 2, z = 2^n$ 

$$\Leftrightarrow 2 \perp 2^{n+1} + 3^n \qquad \cdots$$

$$2^n + 3^{n+1} \perp 2^{n+1} + 3^n$$

$$\Leftrightarrow 2^{n+1} + 6 \cdot 3^n \perp 2^{n+1} + 3^n$$

$$\Leftrightarrow$$
 5 · 3<sup>n</sup>  $\perp$  2<sup>n+1</sup> + 3<sup>n</sup>  $\leftarrow$   $\therefore$  ①  $\circlearrowleft$ ,  $x = 2^{n+1} + 6 \cdot 3^n, y = 2^{n+1} + 3^n, z = -1$ 

$$\Leftrightarrow 5 \perp 2^{n+1} + 3^n \text{ for } 3^n \perp 2^{n+1} + 3^n \quad \leftarrow \therefore \bigcirc$$

よって、次を証明すればよい.

(3) 5  $\perp 2^{n+1} + 3^n$ 

合同式 (mod 5) について考える.

		/	
n	$2^{n+1}$	$3^n$	$2^{n+1} + 3^n$
1	4	3	2
2	3	4	2
3	1	2	3
4	2	1	3
5	4	3	2

以上から、n=5 以降は、n=1 から n=4 の場合の繰り返しであるから、 $2^{n+1}+3^n$  が 5 で割り切れることはないので、② が成立する. ゆえに  $2^n+3^{n+1}\pm 2^{n+1}+3^n$  である.

☆「★互いに素の性質」は時間がなければ証明なしで使うのもありだろう.